

右頸肩痛、右坐骨神経痛

女性 三十七歳 OL

主訴 右頸肩痛、右坐骨神経痛

現症 右頸肩痛、右坐骨神経痛共に4~5年前から悪いという。話がけだるい感じで、やる気がおきないとのこと。今まで整形外科や鍼灸院、整骨院で加療したが、あまり成果がでなかった。28歳の時、結婚生活の破綻で、それ以降生理が止まる。その後、婦人科にかかり、ホルモン剤で生理があったが、体の不調もあり、ホルモン剤をやめる。その時、医師から生理はこないでしょうと言われる。心療内科にもかかっていた。

所見 「遅脈」、腹、火穴は特記する反応はない。L2~4の狭窄が認められる。冷え性もある。

方針 彼女の坐骨神経痛や頸肩痛は、彼女の病態にとっての影の部分と考え、実態は内分泌異常と心身症の治療をしていかないと治らないだろうと思い、方針をそれに合わせる。

処置 復溜、兪府、天牖、手三里に20分留鍼、右坐骨、右帯脈、骨盤虚血、交感神経賦活各処置。

経過 4回目(21日目)この頃、坐骨神経痛は軽減する。

6回目(35日目)気分、眠りも良い。坐骨神経痛も良いという。表情が明るく、いつもと印象が全然違う(このとき、10年ぶりに生理が始まっていたが、彼女はこのことを話さなかった。たまたまあったのだろうと思い、言わなかったという)。「遅脈」はない。

その後週1のペースで順調に治療していたが、11回目(60日目)来院時、脈を診て驚く。とにかく遅いのだ。分速も50も打っていない感じだった。このときの彼女の訴えは「今朝起きたときに右側の頭が麻酔がかかったみたいに感覚が鈍かった」と。

躊躇なく、循環器の専門医へ紹介状を書く。その後、しばらくして来院した時「その後、狭心症と動脈硬化があると言われた」という。薬を処方されたが、今は服用していないとのこと。

この月は生理がなく、(85日目)に来院して、いつもの処置をする。この後再び生理がきます。それで、彼女はこの生理は偶然でなくて、色々考えても、ここしか見当がつかないからといって、先々月に最初の生理があったこと、2回目の生理のことをその次に来院(109日目)したときに、初めて話してくれた。生理がありだして、坐骨神経痛も軽くなっていた。

この10年ぶりの生理復活は、復溜、兪府、(天牖、手三里)の処置をはずしてはありえなかったと思う。